

史跡小牧山大手道発掘調査 現地説明会 資料

令和7年2月16日(日)

小牧山城縄張図
(破線の範囲が主郭地区)



春日井郡小牧村古城絵図(模写・部分拡大)
※十七世紀中頃 名古屋藩蔵 左文庫所蔵



遺 跡 名

こまきやまじょう

小牧山城（国指定史跡 小牧山）

所 在 地

愛知県小牧市堀の内一丁目地内

調 査 理 由

史跡整備

調 査 面 積

約 425㎡

調 査 期 間

令和6年5月～令和7年2月（予定）

調 査 主 体

小牧市教育委員会

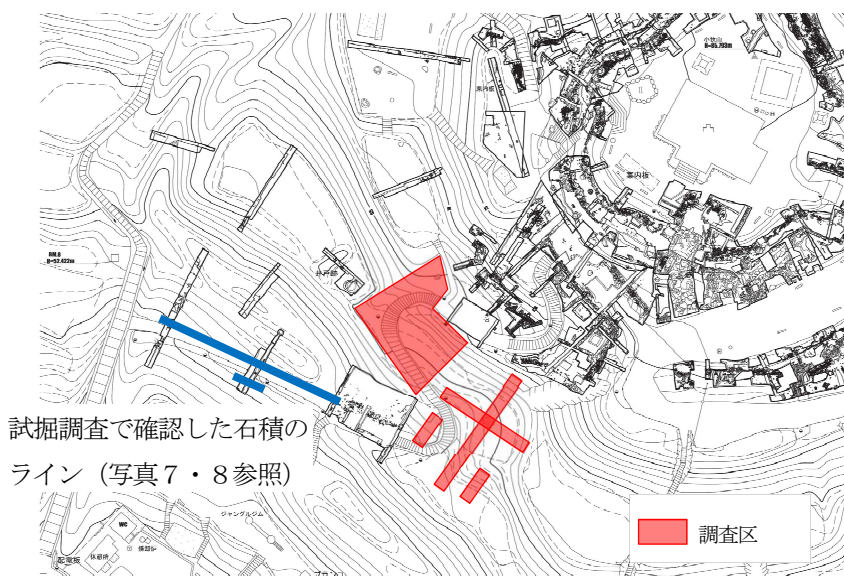


図1 調査位置図

1 調査の概要

本年度は、史跡小牧山の大手の登城路の発掘調査を実施しました（図1内赤色部）。これまで、大手の登城路では、試掘・発掘調査を行っています（付表1参照）。これにより、永禄期（織田信長築城時）の登城路の状況が明らかとなってきました。また、一部では天正期（小牧・長久手の合戦時）に登城路が改変されたこともわかっています。

2 調査の目的

今回の調査区は、麓から山頂へ至る大手の登城路の途中に位置します。登城路は、麓から中腹に至るまでは直線で、中腹から山頂までは「コ」の字型の屈曲を5回繰り返します（図2）。今回の調査区は、1番下と下から2番目の屈曲部にあたります。

大手の登城路の位置や構造、山側の法面の状況を確認するため、調査区を設定し、調査を行いました。

調査で得られた主な成果は以下のとおりです。

3 調査成果（何が見つかったのか）

i) 大手の登城路を造り出すために、山の本来の地形を大きく変え、幅の広い平坦面を造成していることを確認しました。

大手の登城路の造成状況を確認したところ、山の本来の地形を大きく変えていることがわかりました。土層の状況から、山の本来の斜面地形（写真1内I層）に沿って大きく盛土（赤褐色砂質土～褐色砂礫）（写真1

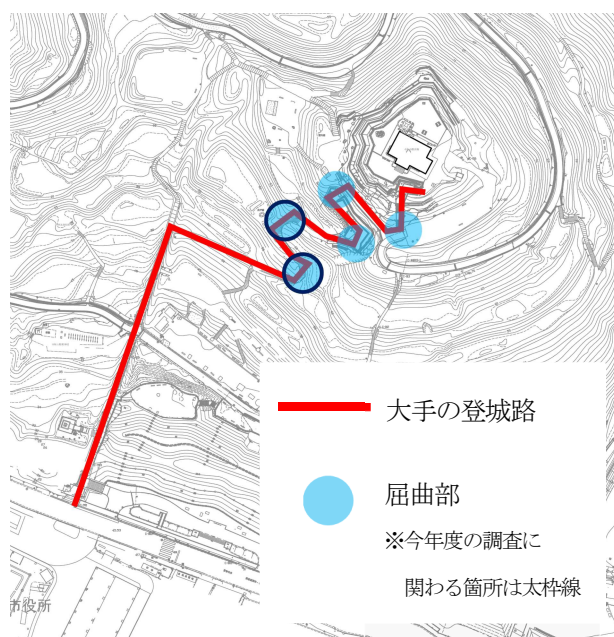


図2 大手の登城路のルート

内Ⅱ層)し、谷側(南西側)では細かく土を積み端部の形状を整え(写真1内Ⅲ層)、さらに水平に積み上げる(写真1内Ⅳ層)ことで、平坦面を作り出しています(写真1・図3)。

また、大手の登城路沿いの壁面では、山の本来の土や岩盤を切り立てています(詳細は後述)。このような造成により、大手の登城路の下から2番目の屈曲部では、少なくとも10m程の幅員を持つ登城路を作り出しています。

調査区西部では、切り立てられた岩盤が入隅を形成し、南西方向へ延びていき、途中から石積が続いていく状況を確認しました。(写真2)。南東から北西に緩やかに登っていく登城路が、この地点で北東方向に曲がっていくと考えられます。

このような構造は、今回の調査区より山頂側の屈曲部(写真3)において、岩盤の加工によって入隅を作り出している状況と似ています。

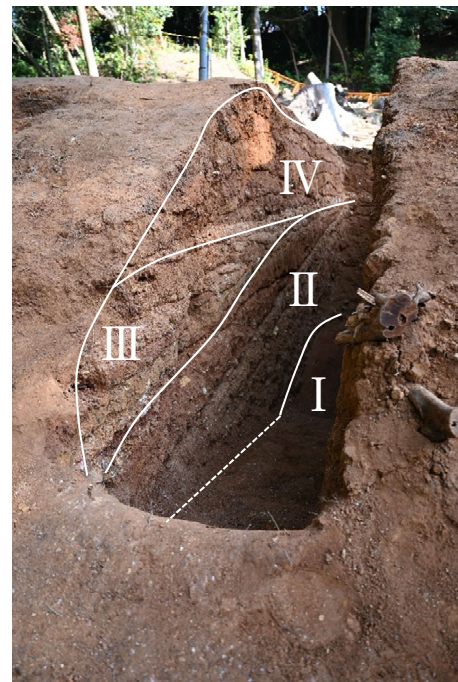


写真1 登城路造成状況

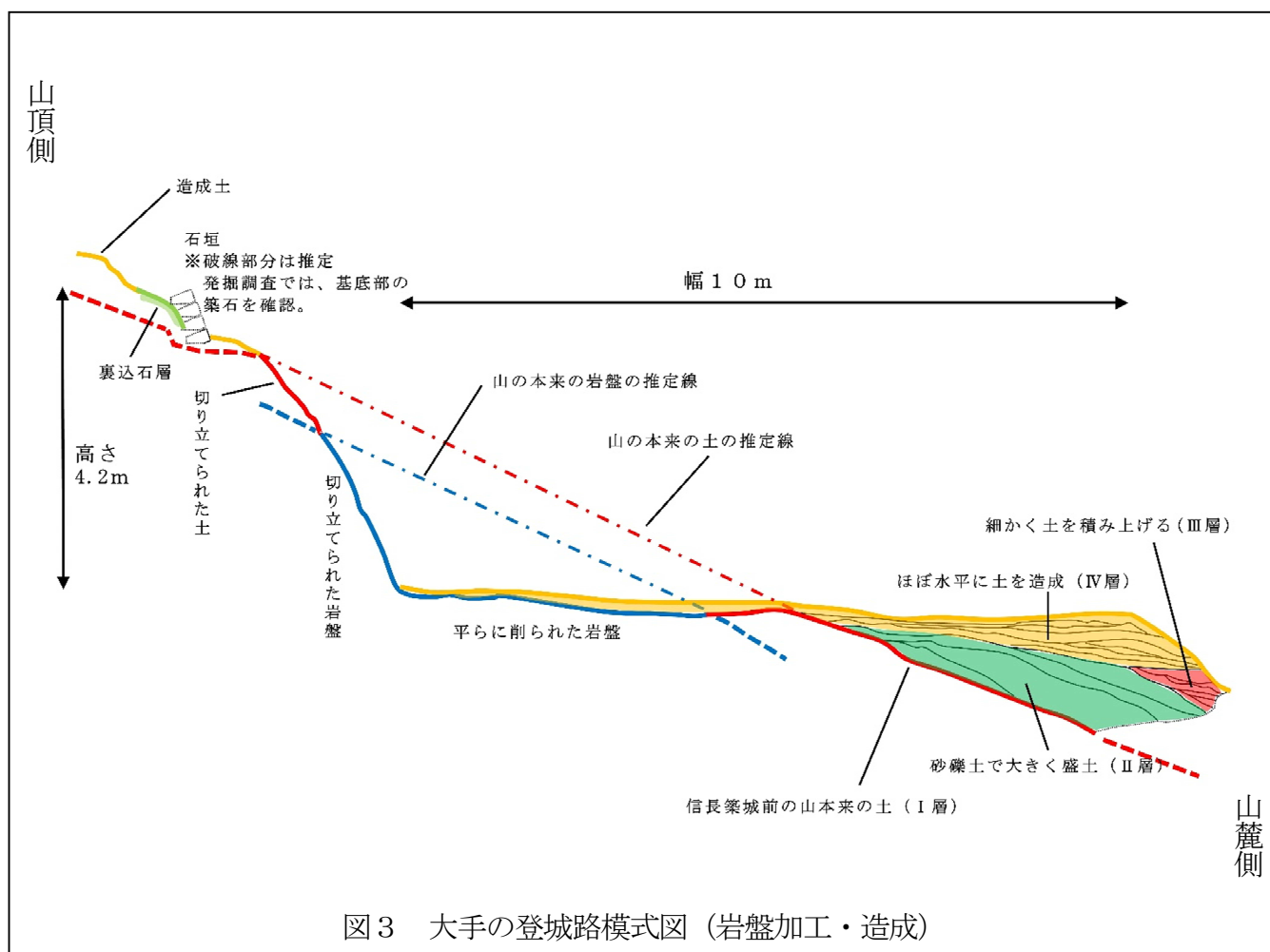


図3 大手の登城路模式図(岩盤加工・造成)



写真2 石積と切り立てられた岩盤の検出状況



写真3 岩盤加工による入隅部（復元整備済み）

ii) 大手の登城路沿いでは、石垣と土、岩盤からなる壁面を確認しました。

大手の登城路の北東側の山の斜面において、上半が石垣、その下が切り立てられた土と岩盤から成る壁面により急な傾斜を作り出していることがわかりました（写真4・5）。

石垣の築石が残っている部分は延長約 8.2mあり、裏込石のみが残存している部分が延長約 4 mありました。今回の調査範囲においては、一直線上に石垣は続いており、今回の調査区外で出隅をつくり、史跡小牧山主郭地区第 12 次発掘調査（令和元年度）で確認した石垣につながるものと想定されます。またこの石垣の西端部は、現在の園路により削平を受け、石垣の石材はほとんど滅失していますが、裏込石の残存状況から、北西－南東方向の石垣は北東へ屈曲すると推定されます。

石垣は、ほぼ基底部の石材しか残っていませんでした。残存している石材は小牧山産堆積岩で、大きさは、横幅約 20～40cm、縦約 15～30cm のものがほとんどです。裏込石の残存状況から石垣の高さは 70cm 程度あったと想定されます。

石垣部分から下は、信長築城前の土と岩盤を人工的に切り立てています。土の部分が約 1.3m、切り立てられた岩盤が約 2.2mあり、石垣から切り



写真4 石垣検出状況



写真5 石垣検出状況（近景）

立てられた岩盤の裾部分までは、最も高い箇所でも4.2mもの高さがあります。

iii) 大手の登城路の中で1番下の屈曲部でも石垣を確認しました。

調査区東側で、トレンチ状の調査区を設定し調査を行ったところ、石垣を検出しました(写真6)。

石垣は、1.8m幅の調査区内で確認し、築石は基底部を含め、最大で3段分が残存していました。石垣石材の大きさは、横 20～45cm、縦 15～30cm、奥行約 40 cmです。石材には、小牧山産堆積岩だけでなく、河原石が使用されています。

過去に、大手の登城路を調査した箇所では、道の山側と谷側に石積が築かれていることがわかっています(図1、写真7・8)。

今回の調査では、この地点に石垣があることが新たな情報としてわかりました。しかしながら、一部を確認したにすぎないため、今後の調査によって、石垣がどのように続いていくのかを確認する必要があると考えられます。



写真6 石垣検出状況



写真7 石積（山側）検出状況 [第1次試掘調査]



写真8 石積（谷側）検出状況 [第2次試掘調査]

IVその他の遺構

●不明遺構

調査区東側で人為的な掘り込みを確認しました。正確な平面形状は不明ですが、北西－南東方向に12.5m、北東－南西方向に5.6mと規模が大きく、楕円形状を呈しています。砂礫を主体とす

る埋土を一部掘削し、下層の状況を確認したところ、埋土の最下層は、拳大の角礫が多く入っており、砂礫層～角礫は、確認した中の最も深い部分で、遺構面から 95cm の深さがありました（写真 9）。遺構の性格は不明ですが、築城前にあった何らかの障害物を取り除きできてしまった穴を埋めたたてた痕跡の可能性があるのではないかと考えています。



写真 9 不明遺構埋土堆積状況

まとめ

小牧山城の大手の登城路については、これまで、主郭（本丸）付近の発掘調査を中心に、その規模や構造が大掛かりなものであることが明らかとなっていました。今回は、それより中腹に近い部分の登城路の調査を行いました。主郭に近い部分と同様に、幅の広い登城路であることがわかりました。山の本来の地形を大きく変えるような人工的な岩盤等の切り立てや、平坦面を作るための大規模な造成からは、山の地形を利用するのではなく、自分の理想とする城を作り上げるという信長の築城に対する強い意志が感じられます。

信長がこのような幅の広い登城路を作った意図は、調査区東側の一部で確認した石垣のつながりなどを、今後も調査していくことで、更に明らかになる可能性があります。

【用語集】

石積(いしづみ)・石垣(いしがき) 石を積み上げて築いた垣や壁で、裏込石のないものを「石積」、裏込石のあるものを「石垣」と呼んでいます。

裏込石(うらごめいし) 排水や背面の土圧を調整し、石垣を崩れにくくするため石垣の背後に入れられた石・礫のこと。栗石(ぐりいし)とも呼ばれる。

出隅(でずみ) 石垣の隅部(折れ曲がる部位)が外側に突き出すもの。

入隅(いりずみ) 石垣の隅部が内側に折れ込むもの。

付表1：大手の登城路周辺におけるこれまでの主な調査成果

調査年	調査名	主な成果
平成16年(2003)	1次試掘 (A地区)	信長築城時(永禄年間)の大手道を小牧・長久手の合戦(天正年間)時に地形を改変する造成を行っていることを確認(下記2次・4次試掘も同様)。永禄年間に築かれた石積を確認(山側)。
平成17年(2004)	2次試掘 (14トレンチ)	永禄年間に築かれた石積を確認(山側・谷側)。
平成19年(2006)	4次試掘 (22トレンチ)	永禄年間に築かれた石積を確認。 道に平行に築かれた排水用の溝を検出。
平成23年(2011)	4次発掘	主郭に至る大手虎口の構造の一端を確認。
平成24年(2012)	5次発掘	大手道脇で切り立てられた岩盤を確認。築城時の道幅が5.4mと推定。
平成27年(2015)	8次発掘	主郭に至る大手虎口の構造を確認。
平成28年(2016)	9次発掘	大手道の経路、その側面に設けられた石垣・岩壁を確認
令和 元年(2019)	12次発掘	大手道の岩盤と石垣の壁面を確認。道幅は6~7m。
令和 3年(2021)	2工区発掘	2段の石垣と人工的に切り立てた岩盤で構成される大手道の壁面を確認。

付表2：織田信長天下統一への過程と城郭

年 代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か？
弘治 元年(1555)	22 歳	清須城入城	清 須 城：石垣なし	×
永禄 3年(1560)	27 歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄 6年(1563)	30 歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城：石垣構築	○
永禄10年(1567)	34 歳	稲葉山城攻略、岐阜城と改め 小牧山城から移る	岐 阜 城：巨石石積	改修
天正 4年(1576)	43 歳	安土城築城開始	安 土 城：総石垣	○
天正10年(1582)	49 歳	本能寺の変		

付表3：小牧山の歴史

時 代	年	できごと
戦国時代	永禄 6年 (1563)	織田信長が小牧山城を築城し、清須から移る。小牧山南麓には城下町を整備。
	10年 (1567)	織田信長、稲葉山城を攻略。岐阜と改称し、小牧山から居城を移す。 小牧山城は廃城となる。
安土桃山時代	天正12年 (1584)	小牧・長久手の合戦 (羽柴秀吉軍と織田信雄・徳川家康連合軍の戦い) 織田・徳川連合軍は織田信長の小牧山城跡を改修して陣城を築く。
	慶長年間	名古屋城築城。小牧山城の石垣石材を持ち出しか？ 小牧山は尾張藩領となり、家康ゆかりの地として、一般の入山が禁止される。
明治時代	明治 2年 (1869)	版籍奉還により、小牧山は国有地となる。
	6年 (1873)	県立「小牧公園」として一般公開される。
	21年 (1888)	山頂西側の曲輪に創垂館が建設される。
	22年 (1889)	小牧山が徳川家の所有となり、一般公開を止める。
昭和～令和	昭和 2年 (1927)	10月26日 国の史跡に指定される。
	5年 (1930)	徳川家から小牧町（当時）へ小牧山が寄付される。
	22年 (1947)	東麓に小牧中学校が建設される。
	24年 (1949)	創垂館が現在地に移転される。
	43年 (1968)	山頂に小牧市歴史館が建設される。
	平成10年 (1998)	小牧中学校を史跡外へ移転する。
	15年 (2003)	小牧中学校跡地を史跡公園として整備、開放される。
	16年 (2004)	主郭地区試掘調査開始（～平成20年まで：第1～4次調査）
	20年 (2008)	主郭地区発掘調査開始（～令和4年まで：第1～13次調査、他）
	31年 (2019)	小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）オープン
	令和 3年 (2021)	主郭地区整備工事開始、小牧市創垂館保存修理工事
	5年 (2023)	小牧山歴史館（旧名称：小牧市歴史館）リニューアルオープン

史跡整備工事実施中です

小牧市では、市のシンボル「小牧山」の整備を進めています。

現在は、山頂一帯で、これまでの発掘調査成果を反映して、石垣の復元や園路の整備等を行っています。

今年度は小牧山歴史館北東側部分（右図参照）を整備しており、工事期間中は園路と山頂の一部が利用できません。



整備工事中はご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い致します。

小牧市教育委員会 小牧山課